湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学

所属　薬学部医療薬学科　病理学

名前　若山　恵

作成日　2026 年5月 22 日

ここより、赤字箇所は執筆時に削除してください。
また、提出時には表紙（A4）をつけて下さい。デザインは自由です。

1. 教育の責任

以下の科目について、担当し指導を行っている。

担当科目：

・「病理学概論」（薬学部、必修、4年生）：ヌーヴェルヒロカワ発行の「カラーで学べる病理学」を教科書として、総論5項目、循環器系、内分泌系・泌尿器系、および生殖器系の計8項目について作成したスライド資料をもとに講義を行っている。疾患の病因・病態と治療法へのアプローチについて知ることを目標とする学問であるため、基礎系科目の復習と疾患についての臨床的な項目との関連性を主軸とし、自らの体験を交えて講義している。基礎系科目と臨床系科目のいわば「つなぎ」のような位置関係と考えている。病理は 15 項目あり、私の範囲は8項目と約半分を占めている。講義時間内および講義終了後にスライド内容の復習を兼ねた穴埋め問題を解かせることで、簡単な復習を行えるように工夫している。最終評価には、定期試験 90％、レポート課題 10％の配分で判定している。

・「病理学」（保健医療学部看護学科、必修、1年生）：昨年度まで、15 項目中、総論にあたる 12 項目と循環器などを担当している。講義時間内にスライド内容の復習を兼ねた穴埋め問題を解かせる時間を確保することで、簡単な復習を行っている。

・「医療薬学チュートリアル演習」（薬学部、実習・演習、2年生）：担当教員の 1 人として少人数制グループを指導している。

・「薬学総合プレ研究」（薬学部、実習・演習、3年生）：生理・解剖・病理分野の担当者の 1 人として指導を行っている。

・「実務実習事前学習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」（薬学部、実習・演習、3～4年生）：実務実習の前段階として、身だしなみに気を付けることから始まり、薬剤師としての基本的な手技や情報の取り扱い、医療スタッフや患者とのやり取りの現場に即した練習を他の教員とともに行っている。注射法についての解説・指導を行っている。

・「生理・解剖学実習」：病理学を教える上で解剖学の知識は必須である。知識を生かして実習の補助を担当している。

・「チーム医療論」（演習、必修、6年生）：薬学部の最高学年がまだ参加していないが、保健医療学部4年生の監督・指導を輪番制で1回担当した。

そのほかの教育活動：

チューターとして他の教員とともに研究室配属学生（4－6年生）の出席・成績、学生生活一般の管理・指導を担当している。現時点では4年生のチューター長を割り当てられている。

【根拠資料1：シラバス】

【根拠資料2：講義配布資料】

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

ここより、赤字箇所は執筆時に削除してください。
また、提出時には表紙（A4）をつけて下さい。デザインは自由です。

薬学部の中では数少ない医師教員として、また病理学という病態を視覚的にとらえる学問の専門家として、その特質を生かした教育を行うことが私の理念である。

それぞれの疾患の本質に結び付いた症状や診断法、治療法などの知識を無理なく紐づけることで、膨大な知識を記憶せざるを得ない医療薬学の分野において、真のスキルを身につけられる教育を目指したい。基本的な学修姿勢として「考えながら学ぶ」ことを教えたい。

同時に身近な疾患と見逃したくない所見を中心とした疾患へのアプローチの仕方を学ばせることから、医療スタッフの一員としての自らの立ち位置を自覚させ、周囲の人に有益な情報を提供しようとする姿勢など、プロフェッショナリズムの育成に努めたい。医療スタッフでないと「どのような症状があったときに何科を受診すればよいのか」すら迷うことが多いため、仕事上必要となる基本的な専門科についても知る機会を与えたい。併せて、人として大切なこと、なども教えることができたら喜ばしい。

知識としては、薬剤師国家試験対策のみでなく、幅広い知識を教えることは当然であるが、身近な薬剤師として地域住民に貢献しうるような人材を育成したい。

2) 理念をもつに至った背景

学生は医療従事者としての仕事や立ち位置について理解しているとは言えず、医学用語に馴染みがなく、就労までに習得すべき知識は多岐にわたっている。つながりを考えずに記憶したことは忘れやすく膨大な知識は相互に関連付けて記憶すること、また病気の本質を理解することから導き出すせる知識を増やすことで、ようやく対応可能となる。単なる暗記ではなく、本質を問う学問を教えたい。また考え続けることを習慣づけることで生まれる、日々の疑問点を解決しつつ前進することこそが学問に相対する適切な姿勢であると考える。

またプロフェッショナリズムは一朝一夕で身につくものではない。個人や物事に誠実に対応していく姿勢こそ大切であり、いまだ大人未満である学生に伝えたいが、伝えることが難しいことでもあるとは了解している。

3. 教育の方法・戦略

講義においては、ところどころに社会で問題になっていること、印象深い写真などを関連付けて挿入し、興味を持続させる工夫をしている。学生に質問を投げかけ、それにその場で答えさせる。演習・実習においても同様に発言を促し、引っ込み思案な学生にも物おじせずに発現する癖をつけさせるように工夫している。一方で批判的な意見が多い学生には相手の優れた点をほめるスキルを教える。

1) 講義に興味を向けさせる：

ここより、赤字箇所は執筆時に削除してください。
また、提出時には表紙（A4）をつけて下さい。デザインは自由です。

90 分にわたって学生の興味を引き付けることは難しい。講義に緩急をつけ、30 分ごとに枝葉にあたるスライドを入れ、区切りをつける。また身近な健康問題を取り上げ、診断法や治療法についても関連付けて解説する。

【根拠資料2：講義配布資料】

2) 学生個々のパーソナリティーを把握し、より良い学修方法の提言を行う。

4. 学習成果

1) 昨年、看護学科において担当した「病理学」においては、穴埋め問題を学修した学生は定期試験において、問題形式を変更しても非常に良い得点が得られ、満点の学生がみられた一方で、学修内容の多い薬学部の学生には、得点率が不十分な学生がみられた。

【根拠資料3：テスト原本】

2) 学生個々のパーソナリティーを把握し、より良い学修方法の提言を行う。

評価を行うことが難しく、またすぐに結果が望めるものではない。さらなる工夫を加え、継続課題とする予定である。

5. 改善のための努力

1) 講義に興味を向けさせる：

今年度においては、特に薬学部の授業では内容が多いため、前もって必要情報の多さとそれに向き合う姿勢について教えつつ講義を行った。授業の内容をまとめた穴埋め問題を提示し、定期試験の出題範囲の主軸とすることで、ポイントを絞った学修を可能とした。これらは短時間で解答可能なドリルとしても使用可能なため、空き時間を利用した学修を促す。

【根拠資料2：講義配布資料】

2) 学生個々のパーソナリティーを把握し、より良い学修方法の提言を行う。

学生へのアンケートを行い 1)の評価を他の教員と意見交換をしつつ行う。また相手の意見を入れやすい環境づくりのため学生と交流できる機会を増やす。

6. 今後の目標

1) 短期目標

・「病理学」の一行問題をドリルで解けるようにプールする。使用を促したのち、ある程度の結果が得られる達成時期：2026 年 9 月（前期再試験前）。

・上記に対するアンケートとその集計（難易度、有用性、興味など）。達成時期：2026 年 12 月。

2) 長期目標

ここより、赤字箇所は執筆時に削除してください。
また、提出時には表紙（A4）をつけて下さい。デザインは自由です。

・「病理学」の一行問題をドリル感覚で解けるようにプールする。
・病態と治療を関連付けた難易度別の症例問題をプールし、学生が RPG 感覚で解けるように工夫する。実際の症例ではなく、パターンとしての例題を用いる。